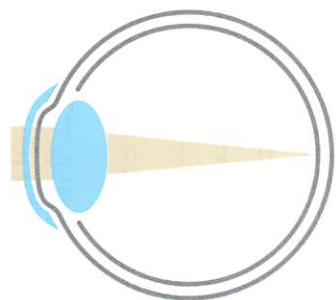
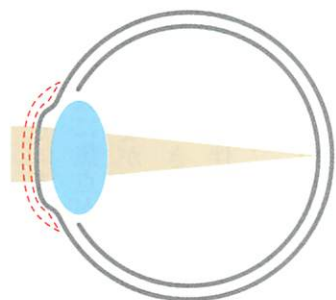


睡眠中にレンズを装着し 日中は裸眼で過ごさせる

近視の矯正で広く用いられるのが、日中にレンズを眼に装着するコンタクトレンズ。これとは逆に、睡眠中にレンズをつけるオルソケラトロジーが近年注目されている。この治療は、特殊な形状のレンズを夜間に装着することで角膜の形を整えるというもの。角膜の形はしばらく維持されるため、日中は矯正が不要になる。レーシックとは異なり、角膜を削ることもないため、装用をやめれば治療前の状



特殊なレンズを装用し、角膜の形を変化させる



レンズを外しても、しばらくは角膜の形が維持される

態に戻るのも安心できる点だ。一番のメリットとして、近視の進行を抑制できることを、むさしドリーム眼科の武蔵国弘医師は挙げる。多くの近視は、成長に伴って角膜から網膜までの距離（眼軸）が長くなることで、ピントが合わなくなる状態だ。「眼軸が大きくなるのはあくまで成長であり、眼鏡やコンタクトでは抑えられません。それに對し、オルソケラトロジーは唯一、眼軸長が伸びるのを抑制できます」。眼軸長が長くなることで緑内障など、眼疾患のリスクも高まる。それを防ぐ意味で

も重要な治療だ。

子どもの近視抑制に 特に有用な治療

近視抑制の効果や、スポーツなどに裸眼で臨めることから、子どもの治療として特に有用だと武蔵医師は強調する。「眼軸長が伸び始めるのがベストです」。治療を開始するのがベストです。時に5〜6歳から近視が開始することもありますが、その時期でも子どもが装用に問題なければ治療可能だ。理想としては、18〜20歳まで、成長期の間治療を続けるのが望ましいという。「個人差はあるものの、平均で眼軸長が伸びるのを50%は抑えられます」

同院も含め、定期的なレンズ交換が可能な定額制で提供する施設も登場し、治療の敷居は低くなっている。近視が気になる人は、一度実施施設を受診すると良いだろう。

オルソケラトロジー

3

取材



医療法人創夢会
むさしドリーム眼科 理事長
武蔵 国弘